

J-EMSエコスクール アンケート結果



市内の小学校・中学校では、美化活動、省エネ・省資源活動、環境活動など、様々な環境取組を行っています。

そこで、各校の環境取組についてアンケートを行いましたので、紹介します。

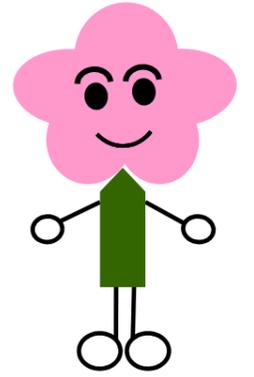
今年度のアンケート対象校は、今池小学校、寺田南小学校、西城陽中学校です。

また、寺田小学校、深谷小学校で実施した「どんぐりやまプロジェクト」についても紹介します。



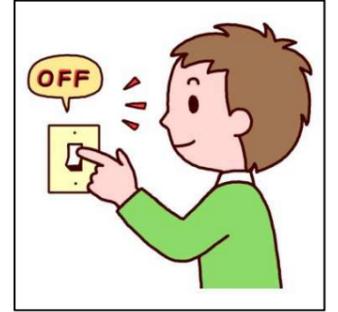
そもそも

J-EMSエコスクールとは



学校で、児童生徒と教職員が一緒になって、

**「電気を無駄に使わない」、
「ごみの分別をしっかりとる」**等の

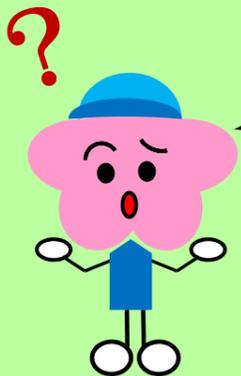


環境にやさしい学校づくりについて考え、
行動するための手順に、

PDCAサイクル (※) を取り入れた
城陽市独自の取組です。



(※) PDCA サイクル
P (プラン: 計画)、D (ドゥ: 実施)、
C (チェック: 確認)、A (アクション: 見直し)
を繰り返すことにより、継続的に改善することをいいます。



どうしてJ-EMSエコスクールが必要なの？



気温の変化



海面の上昇



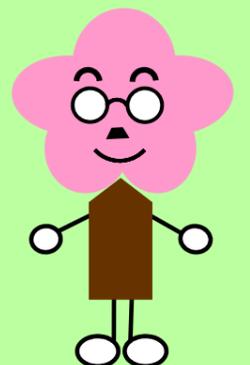
自然への影響



人の健康への影響

(イラスト: 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jocca.org/>) より)

**異常気象や地球温暖化などの
環境問題への関心が高まっているからだよ**



城陽市内の各学校においては、様々な環境活動の推進や、環境負荷の低減に取り組んできましたが、J-EMSエコスクールにより、学校における環境負荷をさらに低減するとともに、環境教育を推進することはもとより、学校

だけでなく、**家庭や地域でも自主的に環境活動に
取り組むような人材を育む**ことが、今求められています。



各 校 の 活 動 の 様 子



今 池 小 学 校

～ 1年中花が咲いている環境を作ろう！～

- ◆自然に親しみ、豊かな心を育てるため、環境委員会が中心となって、花植えや水やりを実施しています。
- ◆児童会本部とも連携し、取組を行っています。

< 取組の概要 >

- ①年に数回、花植えを実施。
※青少健の方々の協力を得ながら、活動を実施中。
- ②環境委員会の児童が、毎日水やりを実施。
- ③児童集会やポスター掲示等により、啓発活動を実施。
- ④児童集会にて、取組を評価。



< 取組の様子 >



青少健の方々と協力し花を植えています。

青少健の方に教えてもらいながら、花を植えています。



綺麗な花壇ができました！



< 取組結果 >

- ◆季節の移り変わりを感じ、楽しみながら自然を大切にする心の醸成ができた。

< 今後の課題 >

- ◆自然の草花に対する興味関心が薄い児童への啓発方法・工夫。



各校の活動の様子



寺田南小学校

～ペットボトルキャップ・フィルタフを集めよう！～

◆環境を良くするとともに、ワクチンや車いす購入などの社会貢献に向けて、環境委員会が中心となって取組を行いました。「学校だより」に掲載してもらい、PTAの協力も得ました。
 ※環境委員会では、ペットボトルキャップなどを集めるほか、メダカの飼育、ゴーヤなどの栽培を行っています。また、節水、節電を呼びかけたり、クイズによる啓発も計画しています。

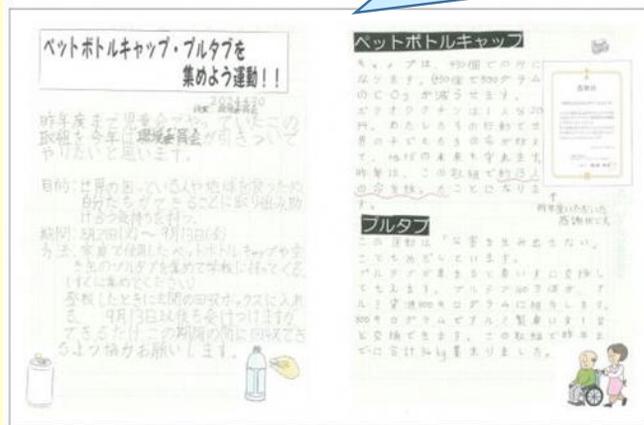
<取組の概要>

- ①代表委員会を通じて、取組の目的・期間・方法などを提案。
 - ②夏休み前に全校に呼びかけ、2学期のはじめに回収。
- ※代表委員会で環境委員会から提案したことを、放送などで再度確認。
- ③集まったペットボトルキャップをチェックし、汚れているものは洗ったりして種類別に整理。
 - ④フィルタフは、アルミ以外の不純物が混じっていないか調べてまとめる。
 - ⑤集まった結果を具体的な数字でニュースとして全校に返した。



<取組の様子>

代表委員会で取組について提案しました！



環境委員を中心に、集まったキャップを整理しています。



<取組結果>

- ◆意識してペットボトルキャップ・フィルタフを集めようとする児童が増えた。
- ◆児童玄関の回収ボックスには、取組終了後もキャップなどが入り続けている。

<今後の課題>

- ◆取組がどのように役立っているか、学年に応じて詳しく啓発していく必要がある。



各校の活動の様子

西城陽中学校

～環境美化の一環として、花を育てよう！～

- ◆環境美化に努める取組として、「花いっぱい運動」を実施しています。
- ◆VAC(校内ボランティア団体)及びPTA、地域の環境ボランティア等で活動しました。

※VAC(校内ボランティア団体)・・・全校生徒の大半が活動を行う。
 PTA・・・「花いっぱい運動」において、準備や当日の花植えを行う。
 地域の環境ボランティア・・・校内の花の世話等を年間を通して実施。



<取組の概要>

- ①生徒会やPTAがボランティアを募集。
- ②花の苗の用意や土を耕すなど、PTAと地域ボランティアで準備。
- ③生徒会の司会によりVACが集合し、環境ボランティアが植え方を説明。
- ④花植を実施(年に2回)。

<取組の様子>

取組が洛タイ新報に掲載されました！



西城陽中「花いっぱい運動」
 学校内パンジーで彩る
 生徒とPTA、地域住民ら

西城陽中学校(松尾貴仁校長) 寺田乾出北(31日)、校内と周辺を色とりどりの花々で彩る「花いっぱい運動」が繰り広げられた。

同校とPTA(中西智子会長)が生徒会の発案により結成された自主ボランティア「VAC」のメンバーらに呼び掛け「学校を美化し、花を世話することで思いやりの心を育もう」と、春(6月)・秋(10月)の年2回行っている。

取組みのスタートは2010年度。それ以来、学校支援本部事業のコーディネートの中岡文枝さん(水主

「ら地域ボランティアから植え替え指導など手ほどきを受けて継続実施している。

この日は、午後4時から昇降口前に、約80人もの生徒が自主的に集まり、地域ボランティアや保護者、教職員らも加わって、中庭や正門付近など持ち場に分かれ、濃赤黄・白・青・紫・ピンクなどのパンジー800株を植え付けた。

参加した生徒たちからは「楽しい」「学校がきれいになるので、参加してよかった」との感想が聞かれた。

【写真】生徒たちとともにパンジーを植え付ける環境ボランティアの中岡さん

※洛タイ新報11月1日(金)付より抜粋

<取組結果>

- ◆自分たちの学校の環境作りをしているという実感を得ることで、自分たちの学校を大切にしたい気持ちを養うことができた。



どんぐりやまプロジェクトとは

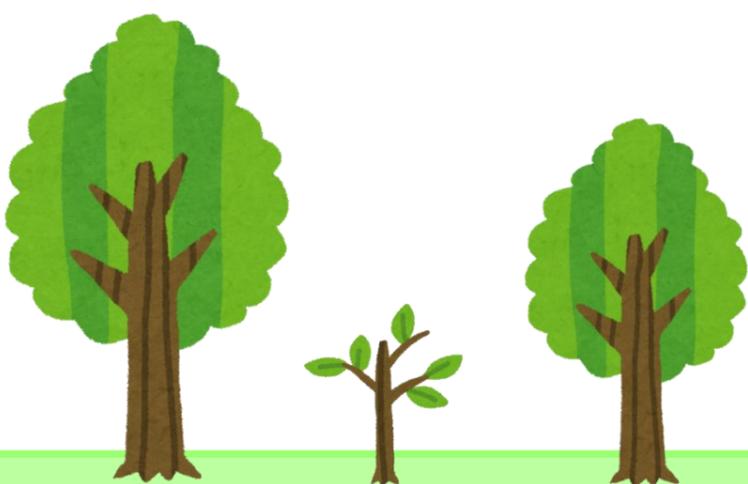


城陽市のまち並みは大きく変わろうとしています。市の豊かな「自然」を守り育てながら、「未来」へと引き継いでいくためには、環境問題を正しく認識し、「今」何をすれば良いのかを考え、身近にできることから行動に移すことが重要です。

「どんぐりやまプロジェクト」は、城陽の未来を担う「子どもたち」が、「ふるさと」の自然に触れる学習や活動を通じて、環境を知り、考え、行動することで、ふるさとへの「愛着」と「誇り」を育みながら、「みどり」を創出しようとするプロジェクトです。

このプロジェクトをきっかけに、一人でも多くの子どもたちが将来の「環境リーダー」として、持続可能な社会づくりをけん引してくれることを願っています。

令和6年度は、「寺田小学校」と「深谷小学校」の2校で実施したプロジェクトを紹介します。



寺田小学校の取組

2年生が
取り組みました！



どんぐり図鑑の作製&フィールドワーク

城陽環境パートナーシップ会議運営委員が、どんぐりの学習会として色々な種類のどんぐりの特徴を教えてくださいました。どんぐりクイズや図鑑の作製にも挑戦し、楽しくどんぐりについて学びました。



班で協力して、どんぐり図鑑を作製



どんぐり図鑑が完成

どんぐりクイズに挑戦。



後日、城陽五里五里の丘にもご協力いただき、園内で自然にまつわるお話や、クイズラリーに挑戦しました。

葉っぱ図鑑の作製&食草探し

3年生が
取り組みました！

城陽五里五里の丘、城陽環境パートナーシップ会議の協力のもと、葉っぱを探し、植物による葉っぱの違いを学びながら、葉っぱ図鑑を作製しました。また、虫が好んで食べる植物である食草について学び、班ごとに探しました。班員みんなで協力して自然に触れつつ環境のことを楽しく学ぶことができました。



葉っぱを貼り付けます



葉っぱのお話を静かに聞き入ります



食草はどこだろう…？



葉っぱを探します

植物によって、
葉っぱの形が違うね



深谷小学校の取組

環境委員会で
取り組みました！



どんぐりの学習会を実施

どんぐりの学習会を実施しました。城陽環境パートナーシップ会議運営委員が用意したPowerPointで木津川運動公園整備時の市内の子ども達がコナラの「里親」になる取組を紹介。この取組時に植えた木のどんぐりも用いて、どんぐりやまプロジェクトは実施されます。どんぐりやまプロジェクトの紹介の後には、どんぐりクイズに挑戦しました。初めて知ることもあり、クイズの解説に興味津々に聞き入っていました。どんぐりの自然での役割について学び、未来の環境のために自分たちに何ができるかを考えました。



どんぐりの木と生物の関わりについて解説。



どんぐりクイズに挑戦。



どんな未来になる？

どんぐりの学習会から3か月ほど経ち、どんぐりやまプロジェクトに取り組んだ振り返りを行いました。どんぐりを植えてから1年間、昨年度の環境委員会から引き継いで育ててきました。夏の暑さで枯れてしまった苗もありましたが、確かな成長を実感している様子です。植樹場所がどんな場所になってほしいのか、未来の環境のために自分たちは何ができるかを考えました。



未来の城陽のことを考え、振り返り中。



大きくなるかな。



未来のために
考えよう！

どんぐりやまプロジェクトで

どんなことを学んだ？



— 寺田小学校2年生のみなさん —



食べられるどんぐりがあることを知らなかった。

どんぐりは1種類しかないと思っていた。

日本の国土全体のうち、約7割が森林ということを知った。

どんぐりの帽子と思っていたが、本当はパンツ（殻斗）だということを知った。

森の中には色々な種類の生き物がいることがわかった。

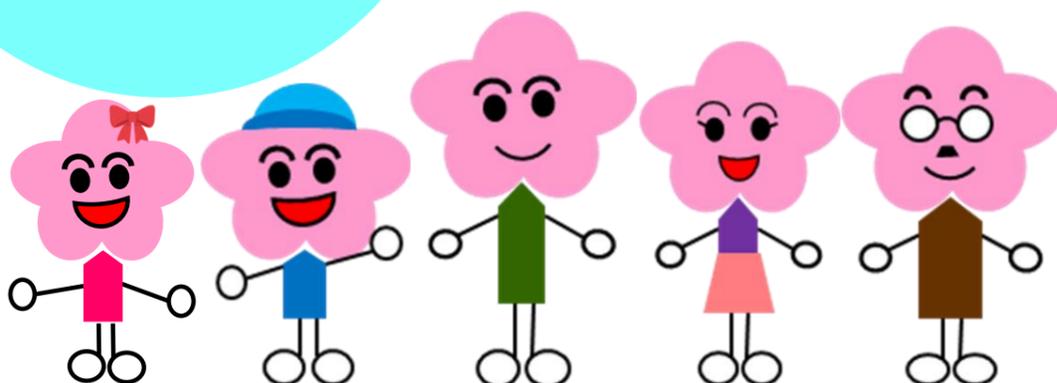
クイズラリーでは知らないことが多かったが、楽しかった。

色々などんぐりがあるということを知った。

どんぐりを1回食べてみたい。

「城陽五里五里の丘」の名前の由来を初めて知った。

どんぐりから出てくる幼虫はゾウムシの幼虫なんだなあと思いました。

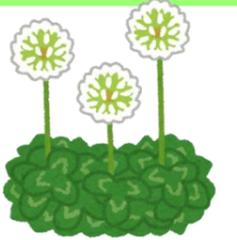


どんぐりやまプロジェクトで

どんなことを学んだ？



— 寺田小学校3年生のみなさん —



色々などんぐりがあり、色々な葉っぱがあることを知った。

色んな葉っぱの大きさの違いに驚いた。

どんぐりが取り放題で楽しかった。

葉っぱ図鑑を作って楽しかった。

育てているどんぐりはアラカシと似ていた。

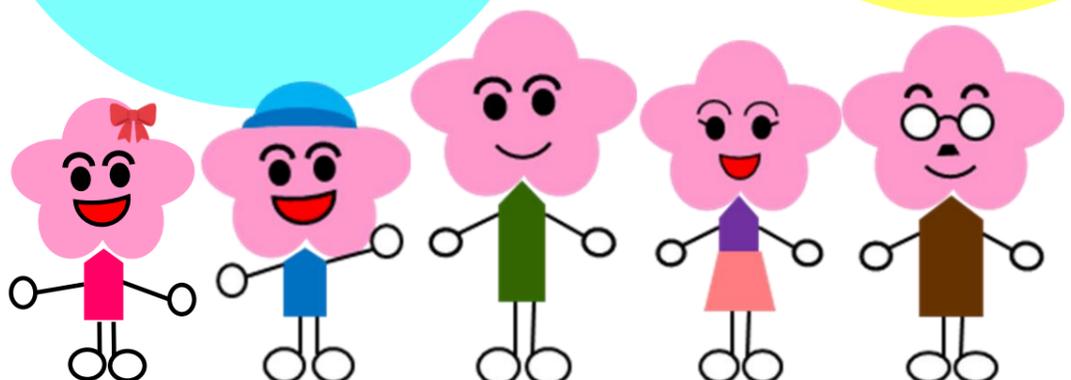
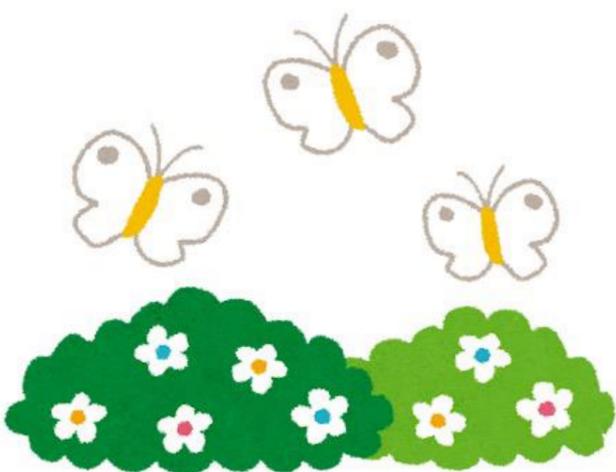
クヌギとアラカシとウバメガシの葉の特徴がわかった。

クヌギの葉はギザギザしていて、アラカシの葉は途中までギザギザしていて、ウバメガシの葉は丸い。

クヌギの殻斗のトゲトゲと、葉っぱのギザギザが似ていると思った。

虫が食べる草を食草ということがわかった。

どんぐりをまた育ててみようかなと思った。



どんぐりやまプロジェクトで

どんな未来を想像する？



深谷小学校環境委員会のみなさん



みんなが明るく笑顔で過ごせる場所になってほしい。自然がたくさんある環境になってほしい。

委員会として未来の城陽のためになれるこの活動に参加できてとてもうれしい。

遊びに行ったときなどポイ捨てをしないのはもちろん、ゴミ拾いもできるときは積極的にする。

自然に優しくポイ捨てをしていたら止めたりする。

将来、城陽市が自然に囲まれた場所になってもらうためにポイ捨てなど環境をこわす行動をしないなどする。

枝などを折ったりせず自然を守る。花などにも水やりをする。

動物や昆虫が生きて人間にとっても生きやすい環境になってほしい。

自分たちが住む城陽市のために育てた。みんなが笑顔になれるような場所に植えてほしい。

自然豊かで自然に優しい場所になってほしい。

山登りなどに行く時にゴミなどが落ちていたら拾ったり、森林の環境を守りたい。

